

長期使用車両をご使用の方へ

クルマを大切にすると、人生も大切にすることなんだ

定期点検は、安全確保・環境保護の観点から、自家用乗用車については、1年ごとに実施することが道路運送車両法で定められています。

しかし、右のグラフのとおり、クルマの使用年数が増えると車両不具合台数割合（整備を必要とする車両の割合）が増加しているにもかかわらず、定期点検の実施率は減少傾向にあります。

長くご使用のクルマには、細やかな点検が欠かせません。日頃からクルマの健康管理を心がけましょう。



出典：国土交通省「自動車の整備前点検結果についての実態調査（平成27年度）結果の分析報告書」より

●整備不良による部品の不具合の具体例

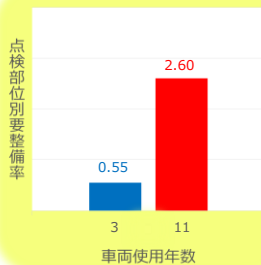
～3年経過したクルマと11年経過したクルマの要整備率（不具合が起こる可能性がある部品の割合）の比較～

制動装置の不具合

部品の要整備率が約4.7倍！



<ブレーキホースの破断事例>

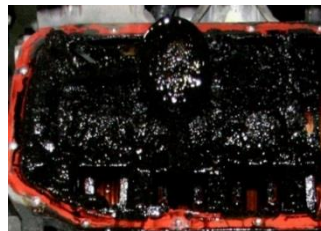


出典：国土交通省「自動車の整備前点検結果についての実態調査（平成27年度）結果の分析報告書」より

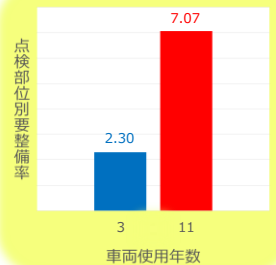
- ❑ブレーキホースの点検整備を怠ると、ブレーキホースの破断が発見できず、ブレーキ液の漏れ及びホースの断裂につながるおそれがあります。
- ❑ブレーキ液の漏れが発生すると、ブレーキの効きが悪くなり、停止距離が長くなるおそれがあります。

原動機の不具合

部品の要整備率が約3.1倍！



<オイルストレーナの目詰まり>



出典：国土交通省「自動車の整備前点検結果についての実態調査（平成27年度）結果の分析報告書」より

- ❑エンジンオイルの交換を怠ると、オイルの吸入口（オイルストレーナ）に劣化物質が堆積・付着することで、潤滑系へのオイルの供給不足が発生します。
- ❑これにより、エンジンの内部が焼きつくことで、エンジンが破損・発火し、車両火災につながるおそれがあります。

自家用乗用車の定期点検は、1年ごとに点検を行う項目が細かく決められており、整備のプロ（国の認証を受けた整備工場）にまかせたほうが安心です。